

私の人生と読書



テレビ朝日
アナウンサー

佐々木 正洋

あれは小学校4年生のときでした。夏休みを控えたある日、「何でもいから1冊選んで、感想文を書きなさい」という宿題が出たんです。僕は当時からおしゃべりでしたけど、一方では読書も大好き。なので、すぐに「アレを読もう」と。それが居間の本棚に飾

られていたことを覚えています。全19巻の山岡荘八著「徳川家康」はまだ正洋には分からなかったところか「じゃあ何を読んだらいいんね？」と食って掛かったら、「フランダーズの犬」



徳川家康 (20巻) 徳川家康

よね。「全部読めるかな」元小学校の先生でしたから、「何が書いてあるんだろ」と授業中もアレコレ考えてソワソワ、ワクワク。相当な意気込みだった

「徳川家康」の読破を決意

さすが名作だけあって感動しましたが、それ以来難しそうな本は僕にはふさわしくないような気がして、手にしなくなりました。そして徐々に読書から遠ざかり、やがて落研、アナウンサーと「しゃべること」に夢中に。でも本当のことを言ると、あの日からずっと、心の隅に「家康」があるんです。なのに、そのまま来てしまった。先日、実家から「家康」を送ってもらいました。あの時、もし読んでいたら僕の人生は……と（笑い）。で、私、半年に1冊の計画で読破を決意しました。小4時代のリベンジを、ここに宣言致します。（次回は岸田秀さん）